

## 社内紹介コーナー

[ 今月号でご紹介する社員は、永田メイ子です。 ]

社会保険労務士、総務の責任者として仕事を始めて10年余りが経ちました。初心を忘れず、若い社員に囲まれて楽しく仕事に日々精進したいと思っています。



### 社員よりのコメント

小野：社会保険労務士、総務部長、女性社員の取りまとめ役、主婦と一人で何役もの役割をスマートにこなしておられます。どんなに忙しい時も、いつも笑顔絶やさず、優しく接して下さる、非の打ちどころのないスーパーレディです。

池松：勉強熱心で、向上心の強いとても頼れる社会保険労務士です。普段は、自分から笑顔で挨拶してくれるとても気さくな方で、社内を明るい空気にしてくれています。これからも変わらないメイ子さんでいて下さい。

中川：メイ子さんはいつもはつらつとされていて、名前の季節のように、初夏の若々しく颯爽とした感じの、そしてこよなく植物を愛する素敵なお方です。  
「！（しまった！）」という時の、にっこり悠然と微笑むあの笑顔は天下無敵です。

## セミナーのご報告



6月8日弊社セミナー室において、「正しい姿勢と歩き方研修」を開催しました。

講師には、HANAスポーツクラブ代表の森崎充子さんにお越しいただき、実際に身体を動かしながら立ち方、歩き方、座り方、メンタルについて学びました。

森崎さんの笑顔と明るい口ぶりで、最初は緊張されていた皆様も、すぐに笑顔が出てきて、約2時間の研修中、終始楽しい雰囲気で受講されました。

お忙しい中、ご参加いただきました皆様方、ありがとうございました。



# 被災地支援だけでなく、先を見据えた女性活用対策を！

## ● 女性の10人に4人は潜在労働力

4月の完全失業率（被災地を含まない）は4.7%と、2010年10月以来6カ月ぶりに悪化し、被災地を除いても失業者は2万人増加しました。被災地である岩手、宮城、福島三県での失業者数は11万人を超えるともいわれており、これを含めれば失業率はもっと悪くなります。日本の労働政策という面では、現時点では被災地の失業者対策が急務ですが、少子高齢化を見込んで、長期的には潜在的な労働力確保が必要とされています。

2010年の15歳～64歳の女性の労働力人口2,544万人。10人中6人が外で働いている（失業者含む）計算で、残りの4人は家事をしたり学生だったりと、外では働いていません。ある意味潜在労働力ということになります。

日本人女性の労働力率は、結婚、出産世代の30代から40代でへこむのが大きな特徴となっており、スウェーデン、アメリカ、ドイツでは、こういった現象はありません。上記年代の女性の退職をストップさせることで、女性の経験者を確保し、社会的損失を減らすことにつながります。

## ● 日本女性の現状と環境

### ★ 一生働き続けることに女性の6割が否定的

「出産で会社をやめる方がいい」という考えは、いまだ根強いようです。

中途退社は会社にも損失となるので、まず女性自身の意識改革も必要ではないでしょうか。

女性が職業を持つことに対する意識（H16年）

区分	男性	女性
子供ができるまで就業し続ける	38.6%	41.9%
子供ができたらやめ、大きくなったら再就業	32.4%	37.0%
子供ができるまで就業	11.5%	9.1%
結婚するまで就業	8.3%	5.4%
女性は職業は持たない方がいい	3.8%	1.7%

### ★ 再就職への意欲は低め？

求職意欲のある男性ですら仕事を見つけるのは厳しい時代となっています。女性の再就職は本人のやる気だけでなく受け入れ体制がなければ相当厳しいはずです。

働いていない理由はなんですか？

1	家事・育児のために仕事を続けられそうもない
2	勤務時間・賃金などが希望にあう仕事がありそうにない
3	近くに仕事がありそうにない
4	今の景気や季節では仕事がありそうにない

### ★ 働き続ける条件は、環境と人事制度とやりがい

育児に追われる若い世代では、子育てをしながら続けられる制度や職場環境、労働時間面の配慮などが必要と回答する一方、子育てが落ちついた40代では、やりがいや人事評価という回答が目立ちます。

子育てできる環境がなければ働くことができませんが、働き続けるためにはやる気とやりがいがもてる環境も欲しいということのようです。

働き続けるのに必要な事はなんですか？

	25～29歳	40～44歳
子育てしながら働き続けられる制度や職場環境	64.7%	39.2%
育児や介護のための労働時間面の配慮	47.8%	40.3%
やりがいを感じられる仕事の内容	47.8%	58.6%
男女均等な待遇と公正な人事評価の徹底	26.7%	41.5%